

さいたま市総合振興計画審議会 第2部会（第5回） 会議録

日時	平成25年7月19日（金）午前10時～午後0時05分
場所	市民会館うらわ 101集会室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計11名 浅輪田鶴子／新井森夫／大久保秀子／久世晴雅／渋谷治美／ 鶴見清一／徳山晴美／中崎啓子／根本稔巳／三宅貫三／宮本直美 〔事務局〕さいたま市 政策企画部：江口部長 企画調整課：松井課長／小島課長補佐／松尾係長／富田主査／ 南主査／池田主任／鈴木主任 〔傍聴者〕2名
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 議題 （1）分野別計画（原案）について （2）（仮称）重点戦略について （3）都市づくりの進め方（素案）について （4）区の将来像（素案）について （5）その他 4 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・次第 ・席次 ・資料1-1 分野別計画（原案）健康・福祉 ・資料1-2 分野別計画（原案）教育・文化・スポーツ ・資料1-3 「成果目標」に関する各部会の主な意見 ・資料1-4 個々の成果指標及び目標値に関する意見 ・資料1-5 「（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？」に関する 各部会の主な意見 ・資料2 （仮称）重点戦略「さいたまのびのびシティ戦略」 ・資料3 都市づくりの進め方（素案） ・資料4-1 各区の将来像（素案） ・資料4-2 「各区の将来像」に関する主な区民意見 ・参考資料 市報6月号で募集した市民意見の概要について
問い合わせ先	政策局 政策企画部 企画調整課 電話 048-829-1035

1 開会

2 定足数の報告

○**司会** さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本日の出席委員は、委員総数13名に対し現在11名となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

3 議題

(1) 分野別計画（原案）について

○**渋谷部会長** 前回、第4回部会で審議しました分野別計画（原案）につきましては、最終的な修正作業を私と副部会長、それから事務局にご一任頂いたわけですが、本日は「健康・福祉の分野」と「教育・文化・スポーツの分野」につきまして、事務局から修正点をご説明頂きたいと思っております。

（事務局から資料1-1及び1-2に基づき、分野別計画原案の修正箇所の説明とともに、資料1-3、1-4、1-5に基づき、成果目標及び（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？の取扱いについて、調整部会での検討結果を報告）

○**部会長** 成果目標の今後の取り扱いにつきまして、ご理解頂けましたでしょうか。成果目標の新しい考え方や項目については、いつごろ示されることになりますか。

○**事務局** この計画は12月議会にお諮りしていくものですが、成果指標の取扱いについて、具体的にいつというところまで整理できていません。年度内に、例えば別冊という形でまとめるイメージもありますが、今後、検討が進めば、スケジュールも含めて報告できるかと思っております。

○**根本委員** 成果指標について、それは手段だから書かないという考えもあろうかと思いますが、計画には、例えば待機児童の数ですとか、市はこれくらいまでやりますよ、というものを行政に対する縛りとして表現して欲しいと思っております。

今の原案は、施策を羅列的に並べているだけのようにも見えます。成果目標がなぜ具体的に表現されていないのか、という点には腹立たしさを感じますし、今まで議論を重ねてきたのに、梯子を外されたような気がします。

○**部会長** 成果指標については、これまで、主観的指標が多いというご意見がありました。こちらについては今後、事務局でご検討頂けるとのことですが、ただいまのご意

見は客観指標を入れ込んでいったらどうか、という趣旨と承りました。ぜひ、ご検討頂ければと思います。他に、成果指標についていかがでしょうか。特になければ、先ほどのご意見を踏まえて検討して頂きたいと思っております。

(異議なし)

○**部会長** 次に、(仮称)皆さんも取り組んでみませんか?についてはいかがでしょうか。「一緒に」という文言を入れた点と、それから副題を付けたらどうかという点ですが、これは調整部会でそのようなご意見が出たものです。この点についてはいかがでしょうか。要は、行政による押しつけがましさが薄ければよい、ということです。

(意見・質問なし)

○**部会長** それでは、この件については今の方向性で検討して頂くものとします。次に、議題の本題に移りたいと思いますが、分野別計画(原案)「健康・福祉の分野」について、何かお気づきの点などございますか。

○**中崎委員** 9ページの施策4に「1日1時間の軽い運動」とありますが、「1日1時間の」と書く必要がありますか。「1日1時間の運動」というのは大変だと思いますし、「適度な運動」でよろしいかと思っております。

○**部会長** 事務局でご検討頂きたいと思っております。個人的には、「1日1時間」というのは結構長い時間かと感じます。

他にいかがでしょうか。施策1から4まで、なかなかツボを押さえた施策の並び順になっているという印象は受けましたが。

○**鶴見委員** 2ページ施策展開(3)の修正して頂いた箇所ですが、保育所については、「待機児童の解消」と「サービスの充実」という二つの要素があるのに対し、放課後児童クラブについては「待機児童の解消」だけで、「サービスの充実」という要素がありません。放課後児童クラブにもサービスの充実、内容の充実といった文言が必要ではないでしょうか。

○**事務局** 一文にしていた箇所を保育所と放課後児童クラブの二つの文に分けた際に、ご指摘の内容が抜け落ちてしまいました。修正するよう検討します。

○**部会長** 他にいかがでしょうか。「健康・福祉の分野」はひとまず終わりにして、次

に「教育・文化・スポーツの分野」に移りたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○**部会長** それでは「教育・文化・スポーツの分野」に移ります。

以前、6ページ施策展開(3)の「する」「みる」「ささえる」「まなぶ」の並び順についてご意見がありました。いかがでしょうか。

○**鶴見委員** 順番としては「みる」からだとも思っていますが、別にこだわってはいません。

○**部会長** 考え次第ですが、スポーツはするものという見方も多く、しているスポーツを見る、ということではないでしょうか。

○**徳山委員** 8ページ施策展開(2)の「文化芸術活動の促進」について、確かに促進はされているのですが、ここには「支援」「助成」といった言葉があまりないように思います。そうしますと、環境は市が整備してくれても活動は自分たちで、ということになりますので、今後7年間の展開を考え、他の政令指定都市では音楽・芸術活動の活性化に向けてアート・フェスティバルなどを開催している現状を考えますと、どこかに「支援」とか「市民との協働」という言葉が入ってもいいように思います。

今のさいたま市は、例えば市民がコンサート活動をボランティアでやろうといっても、それらに対する助成が受けられないなどといった現状がありますので、この総合振興計画で、文化・芸術活動のあり方をもう少し考えて頂ければ、と思います。

○**事務局** 確かに「支援」という言葉は使っていないのですが、内容としては「人材の育成と交流機会の提供、文化芸術に関する教育の充実など」という箇所、支援していくことを書いたつもりです。持ち帰って、所管課と検討したいと思います。

○**部会長** 委員が仰る「協働」は、協力して働くという意味の「協働」という表現でよろしいですか。

○**徳山委員** 横浜市では、市民と行政とが協力してアート・フェスティバルなどを開催しています。そのようなことができればという趣旨ですので、「協働」です。

○**新井委員** 2ページ施策展開(1)に「魅力ある教員の確保」とあります。この「魅力ある教員」という表現が、どうもすんなり入ってきません。教員の問題が色々と報

道されている中でもありますので、「魅力ある」に代わる表現を検討して頂きたいと思います。

○**部会長** 私ども教員養成の現場にいる者たちは、「力量ある質の高い教員」という言い方をしたりします。ご検討頂きたいと思います。

○**浅輪委員** 3年ほど前から、知的障害の方を中心にした和太鼓演奏グループが活動しています。元施設職員の方が立ち上げたのですが、その方は施設を退職して、フリーの立場で頑張っておられます。私は、誰か助けてくれる人はいないのだろうかと思っているのですが、なかなか難しいところがあります。

あのような素晴らしい活動が、1人の人の頑張りでつながっているという現実を見ますと、こういったところに支援の手を差し伸べられないだろうかと思えます。活動を生き甲斐にしている知的障害の方もいますし、色々な人が支えていけるシステムがつかれないかと、いつも思っています。

○**部会長** 「健康・福祉の分野」の施策3と「教育・文化・スポーツの分野」の施策4とをクロスさせることはできないか、クロスさせて整理できると思えます。事務局でご検討頂ければと思います。

他にございませんか。なければ、今日のところはひとまず終わりとしまして、次に議題の(2)に移りたいと思えますが、よろしいですか。

(異議なし)

(2) (仮称) 重点戦略について

(資料2に基づき、重点戦略の概要とこれまでの各部会での主な意見について事務局から説明)

○**部会長** 先日の調整部会では、この重点戦略について多くの時間を割きました。調整部会における議論の概要につきましては、副部会長からご報告をお願いしたいと思います。

○**大久保副部会長** 重点戦略につきまして、活発な議論がなされました。議論の中で戦略の並び順まで詰めまして、今日の資料の通りとなっています。

全体的に、都市間競争という言葉がありますけれども、政令指定都市としてのさいたま市の地位を築いていくと申しますが、積極的に打って出るという姿勢を示し、そのことが市民に伝わるような戦略が必要だという話になりました。言葉の遣い方につ

きましても、計画全体ではソフトな表現が多いのですが、この戦略のところは力強さや新しさが必要だという意見があり、戦略の3と4に関連するかと思いますが、例えば産業ではイノベーションという言葉を入れ、さいたま市における産業の活性化について書き込もうという話になりました。

このように、相当積極的な意見交換があったと認識しています。

○部会長 ただいまの事務局、それから副部会長からのご説明を踏まえまして、いかがでしょうか。

○久世委員 戦略1について、もう少し考えてみたいと思います。子どもと高齢者の中間にあたる青少年層の話がなく、どうなっているのかと思います。そこで、案1と案2をミックスしまして、案2を生かし「次代を担う人財を育む都市・さいたま」として、人財の「財」はこれでよいのかとも思いますが、それに「豊かな教育・子育てに魅力を感じるまち」を加えて、もう少し中間の層のことが伺えるようなタイトルにしたらどうかと思います。私たちは、小学校から24、5歳くらいまでを対象として活動していますから、その辺りをもっと入れられないかと思います。

それから、これから都市づくりをしていくときに魅力あるさいたま市と考えますと、やはり、働けるまち・さいたま市なんだよ、眠りに帰るまちじゃないんだよ、ということをごどこかで言う必要があるかと思えます。

それを戦略1でまとめるのであれば、「次代を担う人材を育む都市・さいたま」というタイトルが良いでしょうし、「子育て・子育て」はその下にサブタイトルとして付くものでしょうから、そのように提案します。

○部会長 さいたま市で働くという点から、戦略3とも響き合うかも知れません。

○宮本委員 私も戦略1について発言します。良い教育・良い子育てをするためには、やはり現場の教員や保育士、放課後児童クラブの指導員といった、先生たちが大切だと思います。その先生たちが、さいたま市で先生をやろうと思えるような環境が整っていれば良いと思います。先生たちの心を豊かにするような、余裕をもって教育に取り組めるような、先生たちだけでなく関わるスタッフも含め、教育・子育てに関わる方がさいたま市で先生をやろうと思えるような、施策を打って頂きたいと思えます。

○部会長 全体で五つの戦略がありますが、私たちの部会は戦略1と2に深く関わっており、一番目と二番目に位置付いているということからも、この部会の議論は重要です。このようなことから、最初に戦略1と2について活発なご意見を出して頂き、その後に戦略3・4・5についてお気づきの点を伺うという、このよう

な進め方をしたいと思います。

○徳山委員 先ほどの青少年も含め、今、生涯教育ということが大きな問題になっています。子どもと高齢者の間、青少年、若者、30代から40代の人たちなどが、魅力ある、生涯教育って楽しいと思えるさいたま市づくりを目指す必要があるかと思えます。やはり、この中間の層のことが抜けていますので、張り合いがないと申しますか、さいたま市で仕事をしたくないと思われてしまうのではないかと、息子や娘の世代のことを考えると、さいたま市に戻ってこないのではと思えることもあります。

ぜひ、年代層のこと、それから生涯教育のことも含めて検討し、魅力ある、楽しいといった言葉も入れて頂けると、私たち世代にとってもさいたま市って良いな、と思える都市になるように思います。

○鶴見委員 戦略1については、案2の方が良いように思います。案1には「子育て」という表現がありますが、日常的に使う言葉ではありませんし、多分、辞書にも載っていないように思います。今まで話し合ってきた資料の中にも、「子育て」という言葉はどこにもありません。ですから案2の方が良いように思います。

それから、中学生が高等学校に進学するときに、どうも東京志向が強いように思いますので、ぜひ、進学もさいたま市が良いという環境をつくりたいと思います。

そして、この戦略には片仮名表記が多いように感じます。これを誰が読むのかと考えますと、もちろん片仮名としたことに意味はあるのですが、ここまで使わなくともよいと思えますし、お年を召した方でもすっと入ってくる言葉で表現できないかと思えます。

○浅輪委員 戦略2の案2に「ゴールドシアターシティ」とあります。私もさいたまゴールド・シアターをよく観にいき楽しみにしているのですが、ここに書くのは違和感があります。あのゴールド・シアターで演じている方々はもの凄くエネルギッシュな方々であり、舞台の端から端まで滑りながら演技をする70代の方々のような、あの真似はできません。ですから、歳相応に、自分が持っている知識や経験を生かせるようなまちであって欲しいと思っています。

○根本委員 戦略1については、確かに「子育て」という語が一般的かという問題があるかと思えますが、やはり子どもを育むことを趣旨として、戦略の一番目に置くことが適切ではないかと思えます。「次代を担う人材」というと対象が広範囲にわたり、結果としてぼやけてしまうと思えます。

私はこの戦略を、子どもを環境の良い所で育てられて、お父さんとお母さんが安心して就労できるということだと理解していますし、ありふれた表現ではなく、なるべ

く具体的に平易に、ワンフレーズでわかりやすく示すべきだと思っています。ですから、ここは「子育て」という言葉を残したらどうかと思います。

○**三宅委員** 戦略1についてですが、この「重点ポイント」を見ていますと、家庭教育の視点が欠けていることに違和感があります。行政としても家庭教育に対するサポート、支援をしなくてよいのか、という感じがいたします。

○**部会長** 「父親の子育てへの参加促進」とありますが、これだけではないというご意見でしょうか。

○**三宅委員** 「父親の子育てへの参加促進」と家庭教育への支援は別だと思ひますし、いわゆる共稼ぎ家庭への支援だけではなく、ベースとなる家庭での教育に対する支援という視点も必要ではないかと思ひます。

○**宮本委員** 今のご意見に共感します。やはり子どもの未来をつくるのは、教育・保育の現場と家庭教育以外にないと思ひますので、家庭教育という視点も入れて頂ければと思ひます。

それから、「父親の子育てへの参加促進」という表現がどうもしっくりこず、何か違うなと感じています。

○**根本委員** 「家庭教育への支援」についてですが、家庭はプライバシーであって、そこまで官が介入する、そのことを表現するのはやり過ぎだと思ひます。ですから、私は賛同できません。

○**部会長** この辺りで、戦略1と2に関する委員のご意見を踏まえて、事務局からご回答を頂きたいと思ひます。

○**事務局** まず片仮名表記が多いというご意見についてですが、例えば戦略3の「イノベーション」のように、キーワードと考え意図的に入れているものがあります。そのようなものは生かしたいと思ひますが、その他の表現については検討、議論の中でより良いものにしていければと思ひますが、ゴールドシアターシティについては、つまり元気に活躍できるまちというイメージを表現したかったということがあります。

それから戦略1についてですが、事務局でも色々と議論してしまひて、子育てをピンポイントに表現していくという考え方と、子どもが成長していく過程を捉えることが大切だという考え方があります。

今は保育園のことが際立って取り上げられていますが、子どもたちは成長してい

ますので、学童、中学校・高等学校、さらには就労まで、さいたま市として力を入れていきたいというイメージを持っています。そのことが戦略3の「キャリア教育の充実」や、障害をお持ちの方の就労にも関連し、働き方、イノベーションというところにもつながってくると考えています。

このところについては、まだ表現が十分ではありませんので、議論をしていきたいと思っています。

それから家庭教育については、他の部会から、就労せずにお子さんを育てている方への支援という視点も欲しいという意見も出ています。

○部会長 それでは次に、戦略3から5に関するご意見も頂ければと思います。

○徳山委員 戦略2に戻ってしまいますが、お許し頂きたいと思います。重要ポイントの「健康づくり」には「ボランティア」という表現がありますが、まちづくり見守り隊などボランティアをしている方々も多いので、同じ重点ポイントの「高齢者の活躍によるまちの活性化」に関しても、ボランティアという記述が欲しいように思います。

それから、同じ戦略2に「地域で暮らす高齢者と地域に戻ってくる高齢者」という表現がありますが、「地域に戻ってくる高齢者」は不要で、「地域で暮らす高齢者」だけでよいように思います。

○部会長 それでは、戦略1と2も含めどこでも結構ですので、いかがでしょうか。

○中崎委員 私も片仮名が多いと感じました。置き換えるのが難しいという感も確かにありますが、イノベーションという言葉についても、意図的に入れたということですし、この言葉が入って良かったという声もありますが、もう少し考えて頂ければと思います。

それから、戦略2に「各種健康診査・検診の受診促進」とありますが、そのことが大切なのは中高年に対してですので、もう少し考えて頂ければと思います。

そして、重点戦略の中に「自転車への利用転換」という表現が戦略2と4にあります。確かに環境という意味であれば重要だと思いますが、自転車事故の多発が問題となっている中で、自転車を薦めてよいのだろうかという気もしています。この辺りも、もう少し考えて頂ければと思います。

同じく、戦略2に「知識・経験の還元」という表現がありますが、これは上のタイトルレベルに入れて頂いた方が良いでしょうと思います。

最後に「アクティブシニアシティ」という表現についてですが、上手い日本語がちょっと思いつきませんので、さらに工夫して頂ければと思います。

○宮本委員 戦略1に「保育所は増加しているものの」という箇所がありますが、下の「重点ポイント」に合わせて「・保育所や放課後児童クラブは増加しているものの」という表現にしたらどうかと思います。

○徳山委員 戦略4の「自転車・徒歩への利用転換」についてですが、日頃自転車を利用している者からしますと、自転車利用を促進するなら自転車置き場の問題をもう少し考えて頂ければと思います。私は大宮駅を利用しているのですが、今まで使っていた駐輪場が、コミュニティ・サイクルの置き場ができて狭くなり、皆さん困っています。ぜひ、駐輪場の確保ということもどこかに入れて頂ければと思います。

○部会長 お気持ちはわかりますが、重点戦略でそこまで書き込むか、ということはあるかどうかと思います。多分、この自転車利用というのは荒川土手のサイクリングですとか、そういったことをイメージしているように思います。

私の意見ですが、戦略5の案2は「安全コミュニティシティ」とした方が客観的かと思います。副部会長はいかがでしょう。

○副部会長 戦略3が気に掛かっています。調整部会でも、時間を割いてこの戦略3について議論したのですが、私の理解ではもう一步踏み込んで、今まで資源として捉えていなかったものを、協力し合って産業資源として発掘することによって、身近な所で働ける環境をつくらう、そうすればワーク・ライフ・バランスがとれて働ける、高齢者も働ける、というお話しであったかと思います。

先ほど、さいたま市を働けるまちに、というご意見がありましたが、何も企業を誘致しようということではなく、今あるものを資源としてどう評価するか、という視点が大切だと思います。例えば、各区の将来像のページを見ると各区の資源が書いてありますが、まるで観光ガイドのような紹介になっていて、これをどのように富に結びつけるのか、という視点が必要かと思います。

そうすれば、大きな雇用ではなくとも、女性や高齢者が身近な所で働けるチャンスが増えてくると思いますので、もう少し積極的に、資源を見直す、あるいは開拓する・発掘するという姿勢が表現できればと思います。

それから、「本市の特徴（認識・着眼点）」を見ますと、客観的な特徴と市としての反省点が交互に書いてあるように感じましたので、戦略に合わせて、書き方に工夫が必要ではと感じました。その方が「ポイント」が生きるように思います。

最後に戦略1についてですが、やはり、青少年を含めるというのは大切な視点かと思います。さいたま市は青少年まで対象として子ども未来局を置いており、これは非常にユニークな取組ですので、そのような市の積極的な姿勢を反映して、14歳で終わりではなくその後の年代も含めて、幅を広げておくようお願いしたいと思います。

○**部会長** 時間も迫っておりますので、もし何かあればまた伺うとして、次に移りたいと思いますがよろしいですか。

(異議なし)

(3) 都市づくりの進め方(素案)について

(資料3に基づき、都市づくりの進め方(素案)の概要について事務局から説明)

○**部会長** この「都市づくりの進め方(素案)」は、初めて部会に示された資料です。この資料は、先の調整部会でご説明頂いた際は重点戦略の5番目にあった行政に関する記述が、戦略に産業が含まれていないというご意見があったことを踏まえて戦略3を産業としたために外れましたが、そのことに配慮しつつまとめ直したものの、という理解でよろしいですか。

○**事務局** 従来から、この「都市づくりの進め方」は行政の取組の進め方を示すという位置づけがあったのですが、部会長が仰る通り、重点戦略から行政に関する記述が落ちたということにも配慮して、反映しています。

○**部会長** この「都市づくりの進め方」は、市民と行政がどのように手を携えて都市づくりを進めていくか、という内容になります。何かお気づきの点がございましたら、ご発言をお願いします。

○**根本委員** 4ページ(3)に「市民から信頼される」とあります。行政が何をするにしても、我々市民はその担当の方たちを通して行政というものを見ていますが、ここに「職員としての自覚と挑戦し続ける姿勢」とあり文字としては魅力的であるのに、何に挑戦するのかということが抜けているように思います。何に、というところが大切かと思えます。

長年のサラリーマン経験からわかるのですが、窓口の人たちが一生懸命頑張っても、中間管理職が何もしないと、担当者は孤立してしまいます。例えば、区役所に行くと担当の方は駆け足で来て対応して頂けますが、奥にいる年配の管理職の方は素知らぬ様子だったりしますので、やはり原点に戻って挑戦することが大切だと思います。今の記述では、文字だけが先走っているように思います。

○**部会長** 方向性として委員が仰るようにしたい、ということ表現するにはどうすればよいか、という問題だと理解しました。

それから、これは私からの提案なのですが、「都市づくりの進め方」という呼称を変更できないでしょうか。タイトルが地味に感じられるのですが、もう少し工夫できないでしょうか。

○**根本委員** 確かに、ここまでは片仮名で面白いネーミングが続きましたが、ここだけ地味な感じがします。一貫性が欲しいように思います。

○**久世委員** 先ほどご指摘のあった箇所についてですが、このような内容を書くということは職員と市民が近くなるということを狙っているのだと思いますが、本当にそうなのか疑問を感じます。

と申しますのは、市民と行政との協働によるまちづくり、という言葉は大変格好が良いのですが、市民の意見をどれだけ生かすつもりがあるのか、疑問を感じる人が多いからです。我々市民は一生懸命に考えたけれども、何だよ、もうプランできてるじゃないの、というのが現実で、私にとって身近なところでは、大宮区役所の問題がそうです。我々が一生懸命に考えた提言がどこまで生かされたのかと考えますと、格好良いことは言うけれども、市民の意見を聞いていない、聞くなら聞けよと思いますし、結局聞かないなら、最初からこのようなことを書くな、と行ってしまいます。

行政職員の頭の中だけで考えるのではなく、そこに住む市民が使いやすいようなまちづくりが大切だと思いますし、そのようなことまで踏み込んだ市民と行政の協働の文章なら結構かと思しますので、ぜひ、ご検討頂きたいと思えます。

○**部会長** 非常に真摯なご意見かと思えます。目の行き届いた文章にして頂きたいと思えます。

○**徳山委員** 協働について書かれています、今後、区役所に協働を進める新しい課を設置して頂けるのでしょうか。行政との協働で何かをしようとすると、たらい回しにされる現状がありますので、協働についてこのような表現をされるのであれば、例えば「区民の参加・協働課」といった課を置くなど、姿勢を示して欲しいと思えます。

○**部会長** 市として、この文章に対応した新しい組織をつくるということはありますか。

○**事務局** 現状では予定していませんが、日頃から、市民の皆様の思いは理解しているつもりです。この「都市づくりの進め方」は、計画に書けば終わりという性格のものでは当然ありません。分野別計画よりむしろ大切ではないかと感じていますので、計画を実施に移す際に、事業や組織にどう反映していくのか、そのプロセスの方が大切だと思っています。

○**根本委員** かなり以前の話ですが、松本清さんが松戸市に「すぐやる課」をつくりました。道路の補修やハチの駆除などが多かったようですが、そこに行けば対応してくれるということで、非常にわかりやすかったと思います。

行政の信頼度を質的に高めるためには、「ここに行けばいい」というわかりやすさが必要だと思います。今の行政は窓口から関係する課につなぐようになっていますが、一般企業ではチームをつくって問題共有するための手法をとります。そういう目玉があれば良いように思います。

それから評価についても、現場に近いところでの評価作業がないと、計画もただ書いただけになってしまうのではないのでしょうか。行政の取組には評価がないように感じています。一般企業では費用対効果などを評価・検証していくわけですから、この計画にも評価の仕組みがあってしかるべきだと思います。

○**部長** 評価については、重要なご指摘だと思います。評価については別項目等で記載があるのですか。

○**事務局** 市の取組の評価につきましては、分野別計画における評価など、色々な形があります。総合振興計画につきましては、実施計画において何がどこまでできたのか評価し、市民の皆様にお示ししています。

そのように評価の仕組みはあるのですが、それが市民にわかりやすく伝わっているかという点、そうではない現状があります。そこで今回、基本計画レベルでも成果指標を置こうと検討してきました。決して、成果指標を置くことをやめるということではなく、より研ぎ澄ましていこうと考えています。先ほども事務局から申しあげましたように、計画を具体的に実施していく過程が大切と考えています。

○**副部長** まず、この「都市づくりの進め方」という呼び方は再検討頂きたいと思います。それから、政令指定都市として成長していくためのプロセスをどう考えるかが大切で、おそらく、住民に一番近いところの区行政をどう強固なものにしていくか、という視点が大切だと思います。そのことを通じて、政令指定都市としてのメリットを発揮できると思いますので、区行政を育てると申しますか、これから変わっていきますという姿勢を表現できれば良いと思います。

○**浅輪委員** 先ほど、評価のことが話題になりましたが、一般の会社と同じように、行政でも評価はしています。私は市の「障害者政策委員会」の委員なのですが、ちょうど数日前、評価表について説明を受けました。ABCで評価してありました。

しかし、行政の評価と私たち委員の評価が懸け離れていたのです。私たちの実感と

全然合わず、例えば、グループ・ホームが全然できてないのに何でこれがAなのよ、といった具合です。少なくとも計画数の半分以上できていたならBでも良いですが、そういった箇所がたくさんありました。

飾り物ではない評価が必要で、例えばC評価であったならば、何が足りなかったのかを真摯に検証して生かすような、そのような行政であって欲しいと思いますし、通信簿ではないのですから、点数を上げようとするだけを目指すのは、やめて頂きたいと思います。

○部会長 このテーマについては他の部会でも議論するのですが、色々な意見が出ると思います。一般企業、行政、それから大学も同じで、計画してもなかなか動かないということがあります。ですから委員と事務局どちらの気持ちもわかりますが、やはりトップの方の姿勢が非常に大切で、今度を変えるんだ、という気持ちを強く打ち出すと、だいぶ変わるということがあります。

期待したいし応援したいと思います。

○事務局 評価については、仰る通りかと思います。各種の分野別の計画、しあわせ倍増プランなど、様々な評価の仕組みがありますし、予算の要求と査定、といった仕組みもあります。そういった様々な評価の指標の立て方、判断基準などが色々と異なっているのが実情で、多方面から指摘されていますので、総合振興計画の担当としては、何とかそれを変えたいという気持ちで、日々考えているところです。

それから先ほど、何が足りなかったのかしっかり押さえるべきだ、というご意見がありました。まさにご指摘の通りかと思います。正直なところ、各所管は事業の推進に向けて頑張っていることは確かなので、財政的な理由など様々な事情で成果は出ていないけれども、取組自体が進んでいけばA評価というケースもあり得るかとは思いますが。しかし我々としては、そのような事情はあるにせよ、市民のニーズをしっかりと押さえて評価し、事業の質を高めていくという、真摯なプロセスを作り上げたいと思っています。

○事務局 市の評価と市民の実感がズレているというご指摘がありましたが、そういったケースも多いのだらうと思っています。今回、我々が総合振興計画の中で整理したかったことは、評価に基づいて限られた人材や財源を振り向けていくという循環をつくる、そのような評価でなければ意味がないということです。それから、行政がしたことが市民に伝わる、良くなったと感じられるような指標なり、評価ポイントを立てて整理していく必要があるということです。そのためには、市民と行政の共通認識が重要ですし、必要な情報を共有して、評価のベースをつくる必要があると思っています。

書くことによって委員からのご指摘にあった行政を縛るという意味、例えば「協働」と書いたら、書いてあるのにやっていないですとか、そのようなことがないように行政が自らを縛るという意味があります。ですから、一見綺麗事にも見えますが、やはり書くことが大切だと思いますし、もちろん先ほども申しあげましたとおり、計画本体と合わせて計画をどうやって進めていくか、具体化していくかということが大切ですので、その辺りを踏まえて力を入れていきたいと思います。

○**部会長** 大きな課題かと思いますが、目に見える形で一步でも前進して頂けるよう期待しています。

(4) 区の将来像（素案）について

(事務局から資料4-1及び4-2に基づき、「各区の将来像」の策定過程等の説明とともに、調整部会での検討結果についても説明)

○**部会長** 委員の皆様方にとっては初めてご覧いただく資料かと思います。ご説明にあったとおり、ボトムアップで色々ご意見を頂いたものをまとめたということですので、基本的にはそのことを尊重して頂く性格のものかと思います。

○**浅輪委員** 私どもの活動では、各区の代表の方と会議を持つ機会があります。先般、岩槻区について、人口が増えもしないし減りもしない、というお話を伺ったように記憶しているのですが、実際のところはどうなっていますか。

政令指定都市としてどのような性格の都市をつくるかは、それぞれの都市が考えればよいことかと思いますが、岩槻区について感じていることを申しあげますと、のんびりした雰囲気大切だと思う一方で、例えば岩槻駅や岩槻城址公園近くの会館など、施設の老朽化が目立ち古めかしい印象を与えてしまいますので、何も最新のものにする必要はありませんが、魅力的な、何らかの形に変えていけないかと思います。

○**事務局** 岩槻区につきましては、既に人口減少局面に入っています。さいたま市全体で見たときは、他市からの流入人口が多いために人口が増えているのですが、岩槻区についてはそのような外部からの人の流入が比較的少ないため、人口が減少しています。

それから、岩槻区のまちづくりについてふれますと、旧岩槻区役所跡地の有効利用に向けた検討が進んでいるほか、歴史・文化など岩槻の良さを生かして、観光資源を活用した区の魅力向上などに向け、取り組んでいるところです。

区の将来像も「自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち」となっていますし、岩槻の良さを生かして、まちをつくっていきましょうという認識です。

○**浅輪委員** 岩槻駅についてですが、エレベーターもエスカレーターもありませんし、障害者の方は東岩槻駅まで行って電車を降り、バスで岩槻市街に戻る必要があるという、そういった不自由さがあります。そういった不便さが障害者の方々にはあったわけですので、早急に改修すべきだと思います。

○**鶴見委員** 私は岩槻区に40年住んでいます。確かに就学児童も減っていますし、人口も減っているように感じていますが、なぜそんなに長く住んでいるかという、住みやすいからです。

岩槻駅については、現在改修工事に入っています。平成26年度にエレベーター付きの駅として完成し、障害者の方にも便利になると思います。岩槻らしい駅ができれば良いと考えていて、もちろん設計の面からもそうなのですが、北口・南口といった呼び方をやめて、例えば「本丸口」「平林寺口」など、岩槻らしい呼び方をすれば良いと思っています。どこにこのアイデアを持っていけばよいかわからないのですが。

岩槻は確かに古いまちですが、人間が古いのではなくて、考え方が会津若松市などと似ているのだと思います。それは悪いことではなくて、隣近所の付き合いは良く、今でも晩ご飯のおかずのやり取りがありますし、子どもは仲良く遊んでいます。そういう良さが岩槻には今でもありますし、生かしていければと感じています。

○**中崎委員** この「区の将来像」の10区の並び順には、どのような意味があるのですか。例えば五十音順にするなど、一般市民にとってわかりやすい順番にすることも考えられます。

○**事務局** 条例・規則などで定められた並び順かと思いますが、調べておきます。

○**部会長** そろそろ時間が参りましたので、本日は以上としたいと思います。何かお気付きの点がございましたら、また事務局までお寄せ頂ければと思います。

それでは最後に、その他として事務局からお願いします。

(4) その他

(第2回総会開催日程等について事務局から連絡)

・8月5日(月)午後2時から、浦和コミュニティセンター 第15集会室

○**部会長** 委員の皆様、よろしいでしょうか。それでは、本日の議事はこれをもちまして終了させて頂きたいと思います。ご協力をありがとうございました。

4 閉会

以上